

# 令和7年6月定例会一般質問

6月5日、6日に行った一般質問では、8人の議員が質問しました。  
また、傍聴者は延べ9人でした。「一般質問」は、各議員の質問や提案等により、執行機関の見解や考え方を明らかにするもので、大切な「政策論争の場」です。



なお、次ページからの一般質問の要旨は、質問者自身でまとめています。

一般質問の会議録は、各議員のページにあるQRコードからご覧いただけます。

1	やまざき 山崎	えいき 栄喜	①道の駅再整備について ②農業委員会建議について
2	ゆもと 湯本	なおき 直木	①令和5年度木島平村一般会計決算審査意見の対応について、その後の状況は ②ふるさと納税の返礼品の産地の確認作業は ③有害鳥獣対策事業について ④地域おこし協力隊員について ⑤ FARMUS 木島平再整備計画に対しての意見募集について
3	ゆもと 湯本	ゆきひろ 行浩	①木島平村の少子化・人口減少問題と地域活性化について ②実質公債費比率について
4	まるやま 丸山	くにひさ 邦久	①少子化対策プロジェクトについて ②ファームス木島平の今後について
5	せき 関	たつお 達夫	①木島平型農業の推進 ②国の交付税と村民生活の調和について ③ファームスの再整備計画について
6	えだ 江田	ひろこ 宏子	①副村長の就任にあたり ②子どもたちがいきいきと過ごせる環境づくりについて ③ファームス木島平の再整備計画について
7	やまうら 山浦	のぼる 登	①道の駅ファームス再整備計画について ②冬季の一人暮らし高齢者の生活支援について ③米不足と米価高騰について ④早稲田大学地域連携ワークショップについて
8	やまもと 山本	たかき 隆樹	①下高井農林高校の将来像は

## 議員の不適切発言に対する議会の対応について

6月議会の一般質問において、議員の発言に不適切な表現があり、村民の方からご指摘をいただきました。

議会ではこの事態を重く受け止め、議会内で協議を行い、当該議員に対して議長から厳重注意を行いました。

今後も、議会として、各議員がそれぞれの役割と責任を自覚し、皆さまからの負託に応えられるよう、真摯に対応してまいります。

# 議会

No.273



自然劇場

次回定例会の予定（令和7年9月第3回）  
※現時点の予定です。  
・開会日 8月29日（金）  
・一般質問 9月3日（水）  
・閉会日 9月16日（火）  
9月4日（木）

議会に対するご意見  
をお聞かせください。

電話

☎0269(82)3111  
(内線170)

E-mail

gikai@vill.kijimadaira.lg.jp

発行：木島平村議会  
編集：議会だより編集委員会



←一般質問  
会議録

# 道の駅ファームス木島平はどうなる？

山崎 栄喜 議員

## 道の駅再整備のスケジュールと進め方を検討するというが

3月26日に村内2会場で「道の駅ファームス木島平再整備計画」の村民説明会が開催された。

そして、再整備計画に対する村民の意見が議会全員協議会で報告された。

また、村長からは「再整備のスケジュール、進め方を検討する」との表明があったが：

### 質問

再整備計画の需要予測、3月に行った交通量調査に基づく需要予測、10年後の需要予測はどのくらいか。

### 産業企画室長

運営改善計画策定業務報告書では3794台。3月の交通量調査では3327台で12%減のため、単純に数値比較すると需要予測も12%減になると思われる。

10年後の需要予測は予測することはできない。

### 質問

3月に行った説明会での意見、

その会場でのアンケート、パブリックコメントで出された意見の概要と、その意見に対する村長の感想は。

### 村長

説明会には2会場で60名の方にご出席いただき、パブリックコメントでは、26名の方から84件のご意見をいただいた。

過去の経過を踏まえて道の駅に反対、再整備計画自体に反対、機能や事業費等から計画への不安や疑問といったものが多かったと思う。

### 質問

賛成・反対・機能修正の3に分けるとどのくらいか。

### 産業企画室長

「明確に反対」がおおよそ半分、「疑問を持ちながら反対」というようなニュアンス的なものもあり、数字としては難しい。

### 質問

再整備のスケジュールと進め方を検討することだが、その理由と何を見直すのか、

また、再度、村民説明会を開催する予定は。

### 村長

再整備計画自体に反対、そしてまた、機能や事業費等から計画への不安や疑問といった声が寄せられたことから、スケジュールも含めて計画内容を見直すこととした。

今後、計画の見直し、内容等を検討して、議会、村民の皆様と情報を共有しながら進めていきたい。

説明会の開催は、村の考え方を整理してその中で検討していく。

### 質問

廃止という選択肢はないのか。

### 村長

仮に一部を残すとか、解体するにしても多額の費用がかかる。

村の経済的な発展、地元の皆さんが憩う場づくりを含めた中で、何が最善か検討していきたい。

### 質問

この際、民意を尊重して、1点目として、道の駅を廃止し、思い切った企業誘致制度の新設と拡充を行い、企業を誘致する。2点目、A棟のみを解体して、観光振興局の事務所と子ども広場のみを整備することも

含めて検討すべきであると考えられるか。

### 村長

ご提案ということで、今後の見直しの中で参考にする。

### 質問

再整備を行う場合には、アンケートを実施すべきでは。

### 村長

現時点でアンケートは考えていない。

## 農業委員会「建議」の再開を

かつては、農業委員会から村への農業施策に関する建議（意見や要望をまとめて提出すること）が毎年行われてきたが、今は行われていない。

### 質問

建議を行わなくなった理由は何か。

### 産業課長

農業委員会に関する法律が平成28年4月に改正され、建議ができるという部分が削除され、建議が行われなくなったものと考えられる。

### 質問

農業委員会から建議を行いたいという要請があったときには、村は応じるか。

### 産業課長

貴重なご意見として適切に対応をしたい。



←一般質問  
会議録



# 言ったことには責任を持ち、 村民に対して説明責任を

湯本 直木 議員

## 滞納整理の取組みは

### 質問

村税の不納欠損額が現年度分と過年度合わせて297万1千円になっているが、この滞納の整理について、具体的な取組みと成果の報告を求める。

### 総務課長

滞納整理の取組みは、地方税法に基づき未納者への督促状を送付、また、納付がない場合は、滞納者の財産調査、財産の差押えを行い、公売等により金銭に換えて徴収としている。成果は、令和5年度分は差押えを10件行い45万2千円を徴収。これに漏れたものは、継続して財産の調査、差押え、執行停止を行っていくが、所在や住所が不明、滞納額が多額な事例については、長野県地方税滞納整理機構や県税事務所に移管し、他機関と連携しながら徴収に向けて取り組んでいる。令和5年度の実績は4件、1708万円を移管し17万円の徴収となった。また、住所不明や財産がないことなどから、徴収できないとして執行停止判定をしたものが1335万6千円となっている。

## シューネスベルクと 池の平ゲレンデは

### 質問

これまで村は廃止の明言をしていない。また、民間から施設の管理運営の希望が複数寄せられているようだが、指定管理者はホテルとスキー場がセットでないと選定されないといい状況を踏まえたくえで、改めて廃止はいつ実行されるのか。

### 産業課長

第7次総合振興計画の実施計画では、施設廃止に必要な解体撤去費として、令和9年度にリフトの解体撤去費約5千万円、令和10年度にシューネスベルクの解体撤去費1億2千万円を計上し、施設の廃止は、この実施計画に基づき必要な事務を進めていくこととしている。

また、現施設を活かしたいという民間事業者がいるかどうかについては改めて調査を行い、森林管理署が示す要件に合致する事業内容であることを前提に調査することを考えている。

## ふるさと納税返礼品の産地確認は

### 質問

令和6年度に木島平村にお寄せ

いただいたふるさと納税の金額は、8830万円との報告があった。近隣の市町村では返礼品偽装の報道がされているが、当村の返礼品の偽装のチェック体制は。

### 産業企画室長

村は、昨年6月から中間事業者にふるさと納税の業務を委託し、地場産品基準を確認することを遵守することも盛り込んだ契約を締結している。一連の報道を受け、自主点検を実施し、返礼品取扱事業者と返礼品リストを確認し、問題ないことを確認した。

## 有害鳥獣対策について

### 質問

村内で4月16日に、熊による人身被害が発生してしまった。被害に遭われた方には心からお見舞い申し上げる。

村はその後、熊被害対策本部を立ち上げ、警戒対策を進めてきたが、現在の猟友会の報酬や補助金、今後の待遇改善は。

### 産業課長

北信管内の状況を調査し、本村の報酬額は管内でも低いことがわかった。内容を改定し、4月にさかのぼって適用させたいと考えている。

また、駆除活動の負担軽減を図るためにドローンなど、負担軽減に必要な資機材の導入を検討していく。

## 地域おこし協力隊について

### 質問

現在、村内では5人の協力隊員が活動しているが「誰が、どこで、何をしているのか見えない」という意見がある。今後、協力隊員全員参加での報告会を実施し、より広く村民に活動内容を知ってもらうべきと考えるが、報告会開催の意向は。

### 産業課長

協力隊の活動報告会の開催は、報告会参加者との意見交換や交流の機会につながることを期待できるため、今年度末または新年度当初に開催したいと考えている。

### 質問

先日の農業委員会との意見交換会で「農業の分野にも協力隊員を採用してほしい」という強い意見があったが、今後、農業分野での隊員の採用の予定は。

### 総務課長

採用については各課で採用、対応しているのが現状。今後は、担当課などとも協議しながら、地域おこし協力隊の制度を活用していくことも可能と考えている。

このほかに「ファームス木島平の再整備計画」についても質問しました。



←一般質問  
会議録

待ったなし、

## 木島平村の人口減少と地域活性化

湯本 行浩 議員

### 木島平村の少子化・人口減少 問題と地域活性化について

#### 質 問

地域活性化と少子化をどう連動させ、相乗効果を生み出していくのか。経済的支援以外の施策が効果的と考えるか。

#### 村 長

現時点としては、対象の世帯や世代の方々の意見や要望に基づき、村として実施が可能な対策を進めていく。

#### 総務課長

保育・教育の魅力向上や若年層の定住促進で、賃貸住宅建設補助事業の増額や村営集合住宅の整備など、住環境の整備も進めている。

#### 質 問

「滞在型観光の推進」「商工業の振興と新しい産業の創出」「地域資源を活用した特産物のブランド化」「農業の振興」「森林の活用」という施策とあるが、それぞれの

具体的な計画や取組みは。

#### 産業課長

地域ぐるみで滞在型観光を推進する。

商工業振興では、事業承継を重点に取り組んでいく。創業支援補助金、特産品開発奨励補助金をより利用しやすい制度へ拡充する。農業振興では、共同活動や営農

活動の支援。簡易圃場整備など畑作基盤の整備。堆肥センターによる地域循環型農業を推進。スマート農業の導入を支援し効率化による生産性の向上を図る。

カヤの平牧場跡地にブナを植樹し森に還す活動。協力企業やボランティア、村民の参加者も増え活動も年々拡大している。

#### 質 問

子育て支援と若者の雇用創出に企業誘致は重要と考えるが、地域の活性化と雇用創出をするには、どのような産業を誘致していくのが効果的と考えるか。

#### 村 長

本村の地理的、気候条件等を勘案すると、雇用規模の大きい工場などの誘致は難しい状況にある。

観光事業や農産物の加工事業が適しているのではないかと思う。村内企業において、後継者対策を含めた事業者支援をしっかりと行うこと。

また、起業を志す方の創業支援、リモートワーク可能企業社員向けの移住PR、近隣市町村の企業への通勤環境の整備を充実していく。工場の誘致よりも違う形での働く場の確保を図りたいと考えている。

### 実質公債費比率について

実質公債費比率とは、地方自治体の財政健全性を図るための指標の一つで、財源を借金返済、公債費に充てているかを示している。

木島平村は、令和5年度13・2%で県内でワースト2位。令和4年

度は14・5%で県内ワースト1位。令和5年度の比較では、中野市が6・1%、飯山市が11・7%、山ノ内町が8・6%、野沢温泉村は8・1%、栄村が7・2%、長野県平均では6・5%となっている。

#### 質 問

令和6年度以降の予測は。

#### 総務課長

令和6年度11・9%、令和7年度10・8%、令和8年度10・4%、令和9年度10・5%、令和10年度10・2%と推計している。

#### 質 問

実質公債費比率の改善。借入金の削減、新たな地方債の発行を控え、返済を進め実質公債費比率を減少させることを考えないか。

#### 村 長

可能なものは繰上げ償還をしている。

借入金の削減や新たな地方債の発行を控えるということは、小規模な自治体にとっては、逆に事業の停滞にもつながるおそれがある。必要な事業に対して、財源として活用していくことは必要であると考える。



←一般質問  
会議録

# 少子化対策で一番効果的なのは しっかりと稼げる雇用先をつくること

丸山 邦久 議員

## 少子化対策プロジェクト

少子化対策に上杉鷹山の政策が木島平の参考になると考え、紹介する。鷹山が藩主になった1768年の米沢藩は、1695年に13万人以上いた領民が9万5千人まで減少した。1768年当時、男性5万5千人に対して女性4万人、女性の数が圧倒的に少ない。当時の農業が重労働であり、女性が農業の働き手と認識されていなかったのが原因だった。それが92年後の1860年には、再び13万人にV字回復をした。男女の差もほとんどない。鷹山の施策は次のとおり。

- ・「赤子養育政策」今の「子供手当」にあたる。子供5人以上の家庭に大人1人分の生活費を支給した。
- ・「地域福祉」独居老人や障がい者、親のない子供を隣近所でいたわる制度を作った。
- ・「結婚支援」田畑が少ない新婚家庭には土地を与え、3年間の年貢を免除した。
- ・「名産品開発」米沢織など開発して藩を潤した。

上杉鷹山の成功例をふまえ、質問する。

### 質問

「木島平村第7次総合振興計画」の重点プロジェクトの1番目に「少子化対策プロジェクト」を挙げている。村長の肝いりプロジェクトと考えるが、3月の一般質問では、具体的な施策・方策は「まだない」との答弁であった。3か月経って施策は。

### 村長

少子化に対する100%正解の答えは出てこないと思うが、4つの施策の方向性を示し、具体的な施策の展開をしていく。

### 質問

現時点で把握している令和7年度の出生予測は何人か。

### 民生課長

年度内の出生数は、8月までに受け付ける妊娠届の人数であるが、6月5日までの届出は7人。

### 質問

木島平に一番足りていないのは「名産品の開発」と考えるが、村長が指導力を発揮して実施した振興策は何か。

### 村長

そばは、荒廃地対策として農業振興公社で作付けをして取り組むようになったのは、私が村長になったときからである。

## ファームス木島平の今後について

### 質問

ファームスのリニューアル計画について、主に立地が悪いから、一貫して反対の立場で来た。村長は、ファームスの立地は良いと考えているか。また、今後良くないと考えているか何う。

### 村長

現在、国道の拡幅改良を行っている。交通量の増加に期待している。

### 質問

立地は事業の命運を左右する本当に重要な要素である。立地が悪いと、安く売らざるを得なくなる。これでは農家の皆さんの儲けが減る。また、継続して努力する必要がある。継続努力をしても成果がないと意気消沈してしまう。あの場所で営業するのは、とても大変だと思っている。もっと皆が

高く売れ、儲かって喜ぶというような場所で考えると、違う事業にするということは考えられないか。

### 村長

ファームスが農の拠点施設として建設される当初、一番心配したのは立地の問題である。あの場所にある村の資産をいかに活用していくか、人を呼び込めるような施設にしていくのが今の考え方である。

### 質問

総合的に考えて、再整備計画を示した。これから見直していくが、立地とすれば、あの場所を考えていかざるを得ない。

### 質問

計画段階からプロポーザルで選定した事業者を参画させるとのことであるが、村長としてこれだけは実現したいと考えていることは何か。

### 村長

子供連れなどが家族で憩い、楽しめる機能が必要だと考えている。農産物や特産品の販売、飲食の提供は、産業振興や村民の収入増とともに遊休荒廃地対策、高齢者の生きがい対策になると考えている。道の駅として、村内外から多くの人を集める機能と販売機能が相乗効果を産み出す。この2つは必要。ただ、プロポーザルの事業者の選定方法は今後見直しの対象としている。



←一般質問  
会議録

## 木島平型農業の推進

### 「農地の維持利用・うまい米の生産」

関 達夫 議員

#### 経営の型をかえ、持続可能農業を

##### 質問

農家の手を離れた米と備蓄米は流通が複雑で、どこかで滞留している。高値な取引も生産者に利益は回ってこない。

①再生協議会で示されている生産量の目安値、今年はどう考えるか。

②生産量が増えると、販売競争に勝たなくてはならないが、対策はいかがか。

③米の適正価格とは。

##### 村長

①国が現行の制度を継続するのか動向がつかめない。各農家の経営判断で生産していただきたい。

②行政指導で販路開拓は難しい。生産者団体、農家の皆さんを支援しながら、販路拡大に努める。ブランド化に向け、新たに米コンクール出品料を補助したり、栽培技術研究など一層取組みを進める必要がある。

③価格高騰はコメ離れ、コメ余りになると価格が下がる。双方が納得できる価格ということになると思う。

##### 質問

農地の10年後の使用を取りまとめた「地域計画」を今後どのように生かしていくか。

①全国では10年後の後継者の定まらない農地は3割超だが、村はどうか。

②山間部での農地の農業振興策は。

##### 産業課長

①10年後の耕作者が設定されていない農地は、計画上の農地面積の約一割を占めている。今後、状況把握、計画の見直しで耕作者を確保していきたい。

②中間管理機構などと連携し、担い手に集積を行っていく。山間部は効率的な経営は難しい。所有者、耕作者、関係機関による話し合いを進め、課題解決をしていく必要がある。

##### 質問

機械化、スマート農業、直播栽培など米づくりに議論があるが、木島平米はある程度手をかけおもしろいと言われる米づくりをすべきだと考える。

①稲作農家の共同化、協業化で省力、人手確保を推奨し「木島平型農業」としないか。

②農業経営体を立ち上げ、創業支援補助金は受けられるか。

③中山間地の田畑の改良を考えないか。

##### 産業課長

①水稲経営の合理化、集落営農機械の共同化は必要と考える。効率的、持続可能な農業経営が実現できるよう、法人化、共同化の勉強会、研修会を開催したい。

②農産加工などの立ち上げは創業支援の対象としているが、農業そのものは対象としていない。

③モデル地候補を選定した。費用負担の問題を整理し、基盤整備の機運を高めたい。

④地域計画で定めた10年後の農業を担う者として設定された農地は1人でも可。

#### 国の交付税と村民生活の調和

##### 質問

消費税交付金は、1億500万円を予定している。消費税が減税などになった場合、社会保障費の財源が懸念される。

①5%に減税となった場合、減少の試算はされているか。

②国の財政状況プライマリーバランスをどう見るか。

##### 総務課長

①税率が仮に5%となった場合、地方消費税交付金は同率で減少すると想定する。

②国の基礎的財政収支は大幅な赤字であるが、地方財政の交付税が維持されるよう要望していく。村の財政運営は効率的、かつ経費の削減に努めなくてはならない。

このほかに「ファームス木島平の再整備計画」についても質問しました。



←一般質問  
会議録

# 人口減少・少子高齢化・・・ 村の「元気」や「活気」をどうつくる？

江田 宏子 議員

## 新副村長の就任にあたり

### 質問

村長には、新副村長に求める役割や期待すること、副村長には就任にあたっての想い、決意、課題、特に力を入れたい分野等を伺う。

### 村長

少子高齢化、産業振興、防災・減災、財政運営等の課題に、これまでの経験を活かし、自分自身の考えを元に、計画から実行まで全ての段階で補足してほしい。

職員が目的意識を共有し、前向きに取り組む要役として、モチベーションを高める役割を果たしてほしい。

### 副村長

責任の重さを感じ、職員時代とは違う緊張感で職務に取り組んでいる職員一丸となって、課題解決と振興計画・総合戦略の推進に取り組みたい。今やるべきこととして、人口減少への対応の検討。また、並行して、少子化対策に向け、全課連携強化し、より柔軟かつスピード感を持って取り組む必要があると思っている。

## 子どもたちがいきいき過ごせる 本村独自の特色ある環境づくりを

### 質問

少子化や核家族化、1丁化の進展等により子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している中、本村独自の特色ある取組みが一層求められる。

### 質問

子どもの遊び場・居場所づくりについての考えは。  
また、アウトドア活動の企画運営スタッフとして、地域おこし協力隊を募集してはどうか。

### 子育て支援課長

\*学校運営協議会が中心となり、「ケヤキの森公園」での川遊び環境や、上段の杉林の整備による遊び場づくりを試行中。  
\*冬期または避暑の遊び場として、人工芝化(今秋予定)の屋内運動場や図書館など、公共施設を有効活用できるように対応したい。また今後、体育館(兼…避難所機能)への冷暖房整備も検討したい。

\*中高生向けに、学校でも家庭でもない「第3の居場所」の必要性は認識している。需要の把握や関係者と情報共有しながら検討したい。  
\*協力隊は、現時点で構想にない。

## 多様な学び・特色ある学校づくり 等に向けた「学校カリキュラム等の 柔軟な運営」についての考えは。

### 質問

毎年、学校に日課の見直しを依頼し、小学校では「アドバンスタイム」自学自習の時間、中学校では「月曜の授業を5時間に短縮する」など工夫。

### 教育長

授業時間が過密化しており、今後子どもたちと教職員のゆとり確保に向けて、さらに改善を図りたい。

### 質問

デジタルツールの考え方は。  
学習の道具として、有効に活用する一方、視力や集中力への影響など成長期の子どもへの配慮も必要。

### 教育長

使用時間の管理や紙教材との併用による学習バランス、一時的に機器から離れる「デジタルデトックス」や、「デジタルマナー」などの取組みも重要と考えている。

## これからどうなる ファームス木島平の再整備計画

再整備計画には反対意見も多く寄せられた一方、子育て世代からは

遊び場は必要との前向きな声もある。

### 質問

- ① 反対の要因をどう分析しているか。
- ② 今後の判断と進め方は。
- ③ 再整備により期待される効果は。
- ④ 解体の場合の費用と財源は。
- ⑤ 解体後の活用案はあるか。
- ⑥ 再整備や解体の場合等の比較検討資料を示す考えは。
- ⑦ 今後のスケジュールは。
- ⑧ 村民参加型での進め方は可能か。

### 村長

- ① 過去の経過から道の駅自体への反対、人口減少の中、需要予測や大規模事業への不安や懸念。
- ② スケジュール、事業者の選定方法等、全てについて再検討し、たたき台ができたところで改めて説明、意見聴取の場を設けながら進めたい。
- ③ 来訪者に村を知ってもらうこと、多世代が楽しめる場、更に、村の産業振興にもつながる相乗効果。
- ④ 概算で約1億円。再整備前提の解体は補助対象だが、単なる解体のみは全額村の負担。
- ⑤ 現時点で具体案は無いが、今後、再検討結果を踏まえ検討したい。
- ⑥ 比較できる資料を揃え、ご意見をいただくことも必要だと考える。
- ⑦ 現時点では示せないが、早めに示したい。
- ⑧ まず「再整備」の合意形成が必要だと考える。



←一般質問  
会議録

# 村民の要望や意見を 十分聴き取るのが行政の基本

山浦 登議員

**道の駅再整備計画説明会等での意見をどのように受け止めたか**

### 質問

3月26日、2会場で説明会が開催され、延べ60人が出席。その後のパブリックコメントでは26人、84件の意見が寄せられた。この意見をどのように受け止めたか。

### 村長

道の駅自体の反対、計画の反対の意見が一定数あった。計画を疑問視する意見が把握できたのでスケジュールを含めて見直しする。

### 質問

今後、更に見直し案の説明を求めたい。スタートする前に、議会、村民に諮る考えはあるか。

### 村長

いただいた意見を財源等も考慮しながら、計画を見直し、スケジュールや建物の形状だけでなく、指定管理の方法をとるかどうかも含めて、村民の意見を聴取する機会をつくっていききたい。現に今あるという前提でこれからも整備計画を考えている。比較検討できるような材料を用意しながら、多様な意見を聴取できれば

と考えている。  
**冬季の高齢者の生活を守る**

### 質問

3月議会では「冬季の共同住宅の提供の実施予定はない」との答弁であったが、特に一人暮らし高齢者には冬季は負担が多く生活が厳しく、不安を訴える方がみられる。実施する方向で検討できないか。

### 民生課長

施設、スタッフの確保、利用料の状況等、すぐに対応は困難である。

### 質問

冬季の一人暮らし高齢者の実情を把握する考えはないか。

### 民生課長

今のところ調査の予定はないが、村職員、民生委員により実情把握に努めている。個々に合った対応をしていかなければいけない。冬季の高齢者支援として村の除雪支援制度がある。対象者を老人世帯、母子世帯、傷病・障がい者世帯等と定め、毎冬前に民生委員の協力を得て、対象者を決定し、実施している。

**今回の米不足米価高騰の対応は**

### 質問

米不足、米問題解消のためには、米の増産により食料自給率を上げ、米作農家支援のため米の価格保障、所得補償を行う、米価を市場任せにしないなど、対策が考えられるが、村としてどのような支援ができるか。

### 村長

今、国は米問題の対応を考えている。政策的にも大きく転換される部分があると思う。その結果が消費者にとっても生産者にとっても、お互いに良い状況になることを望んでいるが、村とすれば、うまい米の産地として、しっかりと木島平米のブランド化を更に高めて、農家所得の向上につながるような支援をこれまで以上に進めていく必要がある。

### 質問

村農業再生協議会は、令和7年度の米作付け目標・目安を水田全体面積の65%としているが、その後、米不足の中、目標を転換しているといわれている。再生協議会の米作付け目標・目安をどのように変えるか。

**村長**  
村が示している目安値については、現時点で特段変更は考えていない。あくまでも目安であり、それぞれの農家の経営方針に従って作付けしていただきたい。

**早稲田大学連携事業について**

### 質問

毎年学生の皆さんが村民と触れ合い、地域を調査し、その研究の成果が報告されている。学生の目線と感覚から木島平のポテンシャルを見だし、素晴らしい提案がされている。提案をどのように行政に生かしているのか。

### 総務課長

平成21年度からスタートし、各地区の課題に取り組み、課題解決の提案をいただいた。

事業化に至らなくても、多くの学生に木島平村を学びのフィールドとして、関係人口増、木島平のファン増加につながっている。

### 質問

提案が具体化した事例は。

### 総務課長

令和5年度に「ラクラク暮らしツアー」を試験的に実施。卒業した学生の中に、社会人となっても地域と結びついて、村で起業したケースもある。元学生たちが村に何度も訪れて交流をしているという効果が出てきている。



←一般質問  
会議録

# 下高井農林高校は 来年創立120周年を迎える。 将来像は。

山本 隆樹 議員

## 下高井農林高校の将来像は

### 質問

中山間地存立校の再編基準で、在籍生徒数が2年連続160人以下であれば、飯山高校の地域キャンパスとするとして進められている。

今年の入学者は39人、2年生52人、3年生57人、計148人となった。来年の入学次第で2年連続160人を割ることになり、再編の基準となる。

再編に関する基準等に見直しがあるのか。経過と今後の取組みは。

### 教育長

令和8、9年度の入学人数によって、飯山高校の地域キャンパス化の方向で検討が始まり、村や地域の方との懇話会が計画されると推測。

県教育委員会のイメージする地域キャンパス化に対して、村としての要望意見をとりまとめたり、1市3村共同で要望書を提出するなど、岳北地域の農業として、人材育成を担っている農林高校が地域キャンパス化になっても、魅力ある学びの実現、施設環境の充実が図れるよう

取り組み、在籍生徒数の処遇についても検討する。

### 質問

行政、地域の財政支援として、コーディネーターを配置し、農林高校の魅力化と地域との交流調整をめざし実現している。成果と課題は。

### 教育長

農林高校と地域を結ぶ地域連携コーディネーターを配置して5年目になる。農林高校生と保育園児、小学生、中学生との交流、社会福祉協議会の方々、障がいを持った方々との交流。また、本村の課題を学習課題とした教育活動も実施。そこへの橋渡しを行っている。農林高校生と地域の交流活動は、年々充実している。

農林高校では、北信州学として、1年生が地域を知る活動を展開、上級生は地域の課題を解決するという課題研究、地域との交流調整に努めている。

課題として、農業を経験していない入学者も多い。3年間で学び、次につなげる進路として、農林業をめざす生徒が少ないことが課題。

### 質問

農林高校のメッセージの中で、「チーム農林として職員、家庭、地域で基礎学力、人間力、課題解決力を育て、生徒の夢をサポートする」とある。

自治体独自支援事業の中で、飯山市は、高校生チャレンジ活動支援事業として地域活性化事業計画を発表し、認められたら必要経費が交付される。また、「百姓塾」という公民連携活動の一環として、講師を農林高校の生徒が務めている。

村では農業経営を実践的に学ぶための仕入れ、生産、加工、販売、流通等の取組みへの支援をうけている。現状を伺いたい。

### 教育長

農業振興公社は、今年度「下高井農林高校そば部応援プロジェクト」を展開し、材料費や販売で支援。そばの提供、販売を通じた農業経営を実践。そば部の活動をきっかけに、他の商品についても流通プロセスにつなげることで、農林高校のモチベーションを上げ、特色ある活動や魅力アップが期待される。

### 質問

学生と共に、岳北地域の人材を活用し共に学びあえるリカレント型教育を実践し、農林高校の施設、スマート農業に進められるようドローン等の整備を実施、農業を通じてこそ学び、人を育てるために北信地域振興局、北信農業農村支援センターからの支援・協力。また、企業と連携した中山間地域の在り方等を共に学ぶ木島平モデルを発信できないか。

### 教育長

県教育委員会に、ドローンを使った農業、施設の栽培環境制御システム、AIを活用した最新の機器の導入等を要望している。

農林高校側として、専門性を持った職員の採用、ドローンは工業系でないとなかなか操作できないという課題がある。

今後、県へ要望書を出す際は、教育内容や用途に応じたAI機器の導入とセットで外部機関との連携の面での予算づけ等を要望していく。

学校単独で魅力ある学校づくりや特色ある教育課程はできない。関係機関と連携を今まで以上に太いものにしていく必要がある。

その中で、いろいろな企画が立ち上がり、それが形になって、農林高校の魅力アップにもつながっていく。そういうことを含めて応援していきたい。県に要望していく。



## 調布市・木島平村姉妹都市盟約40周年記念事業

(7月3日)

今年8月、調布市との「姉妹都市盟約40周年」を迎えるにあたり、調布市議会議員の皆さんをお迎えし、カヤの平高原でブナの植樹を行いました。

標高1,500mに位置するカヤの平には、「日本一美しいブナの森」と称される樹齢200～300年のブナの森が広がっています。ブナは「緑のダム」と呼ばれるほど保水力に優れ、米づくりに欠かせない水の源です。



日本一美しいといわれるブナの森



移植するブナの稚樹を掘り取る



牧場だったところに稚樹を植える

調布市議の皆さんの中には、カヤの平を訪れるのが初めてという方も多く、ブナの森の美しさに感動し、「とても良い活動だった」「調布の子どもたちにも体験させたい」といった声をいただき、実りある交流となりました。

この苗の生長とともに、両市村の絆が今後も末永く続いていくことを願っています。

1955（昭和30）年、国有林の一部を借り受け造成した牧場ですが、現在一部が未利用地となっています。

国への返還には森林の状態に戻すことが条件ですが、長年、牧草地だったため、根の層が厚く、自然再生は困難であり、2013年から村内外の企業やボランティアの皆さんのご協力ですべて「ブナの森」再生事業が行われています。

当日は、毎回この事業を支えてくださっている「長野県林業総合センター」の小山泰弘さんと「森林結社モリアゲ団」の岩崎唱さんのお話で、楽しく学びながら作業を行いました。

ブナの稚樹を掘り、表土を剥いだ場所に50cm間隔で植樹、数十年後再びブナの森が蘇ることが期待されます。



### 議会を傍聴しませんか

本会議は、どなたでも傍聴できます。

傍聴席は、役場2階 議場後方が入口です。

また、本会議は、ふう太ネットで生放送および再放送をしています。開会日と閉会日の再放送は、当日の午後7時からです。

一般質問の再放送は、ふう太ネット番組表または音声放送等でご確認ください。



### 議会だより編集委員

- ・委員長 江田宏子
- ・副委員長 山本隆樹
- ・委員 山浦 登
- 関 達夫
- 湯本直木
- 湯本行浩